

令和5年度佐賀県立名護屋城博物館協議会議事録

日 時：令和5年7月31日（月）14：00～15：30

場 所：佐賀県立名護屋城博物館 図書閲覧室

出席者：委員9名（福岡副委員長、中村委員、山根委員、藤木委員、渡邊委員、
弓山委員、高柳委員、石山委員、古館委員）

事務局8名（家田館長、松本統括副館長、竹下副館長、宮崎学芸課長、
藤田総務課長、金子係長、久野係長、加藤係長）

県文化課1名（古賀企画主幹）

会議の冒頭、館長あいさつ、その後、委員及び事務局職員の紹介を行い、議事に入った。

議 事

（1）令和5年度の事業実施状況

統括副館長がパワーポイントを使って説明

（2）「はじまりの名護屋城。」プロジェクト

文化課企画主幹がパワーポイントを使って説明

（3）前回協議会における意見概要と対応状況

総務課長が資料に基づき説明

（4）質疑応答

（副委員長）

予定されておりました3つの議案の説明について、事務局から説明いただいたところでございます。

ちょっと、予定の時間より遅れておりますが、ここで委員の皆様から御意見・御質問等いただければと思います。もしくは、全員の皆さんからいただける時間がないのかもしれませんが、いかがでしょうか。何でも結構でございます。それぞれの立場でも構いませんし、一県民、一市民としての御発言でもよろしいかと思っております。

（委員）

何から話そうかと思っていたんですが、僕は小城市三日月町から、ここまで1時間ちょっとかかってきたわけですね。

その間に、この鎮西町という世界に入ってきて、木と森と、たまに見える海ということですが、ここには、やっぱり観光産業がしっかり残っているということもあるので、その

一つのコアが、この名護屋城という施設だと思うが、実際、木と森ばかりで名護屋城が見えません。

名護屋城自体は、歴史と直接関係のない鳥が運んできた種が芽吹いて森を形成し、つまり、天空の城ラピュタ城における森と同じ構造になっていて、どこから見ても「ここが名護屋城だ」と、この地域の人たちが名護屋城アイデンティティを持つような、(唐津に来たら唐津城が見えて、唐津に来た感が大変あります。虹の松原を見て、「唐津に来たな」、「海に来たなあ」とすごく思うが、)ここに来たら、海に来てるのか、山に来てるのかもよく分からない感じで、森に囲まれ続けているので、どこから見ても「ここは名護屋城だ」と分かるような、この石垣の見せ方ということが、まず重要なことだろうと思います。

とにかく、石垣を見せてもらいたい。

新しく保存のための開発を一生懸命するよりも、今まで開発してきたことを、いかに県民に、県内外の人たちに、いかに味わい尽くさせるかと。もう十分納得してもらうまで見せる。見せるというか、保存と展示というんだったら、まずは展示に全力をかけるべきだと私は思います。

そういう意味からすると、それでも、ここに来られる方たちがいっぱいいて、旅館に泊まるということもあるのかもしれない。(私は旅館に泊まらないで、ここに来て、目的があってここに来たから。)

ナビゲーションシステムは、ここまで僕を連れてくることができるけども、国道を渡っても、どこに行っても「名護屋城博物館はここ」って、ちょっと立ち寄ろうかと、パッと思いつくような「名護屋城博物館はここだ」という看板の類いが、もうほとんどなかったと思う。

横竹交差点かなんかのところに1か所「名護屋城博物館こちら」とあったけれど、それでは、鎮西町に来た者たちに「名護屋城博物館に行ってみよう。」と思いつかせないというか、最初から思ってる人は、ナビがもう連れて行ってくれるので、「名護屋城博物館に行こう。」と。「ああ、行けた。」ということですね。

だから、もっと看板を設置するべきだと。

ここに来る目的で、ちょっと暇があるから観光でちょっと立ち寄ってみようか、と思わせるには、その契機となる看板が足らな過ぎると思います。

そして、「ああ、名護屋城に来た。」と思わせるためには、森を、歴史的な価値はない、ただの自然林で雑木ですから、秀吉お手植えの大楠だとか杉だとか、樹齢400年とかと言うのなら別だけど、ただ鳥が運んできた1800年代に、2000年になって運んできたものが大きくなってることですから、さっさと切って石垣をちゃんと見せてもらいたい。どこからでも見えるようにしてもらいたい。

あともう一つなんですが、さっきの観光の話もそうですが、ここに雇用と景気を与えるものは誰かと言うと、(観光というか、仕事でも何でも、)ここに宿泊してくれた者たち、そして、それを「ちょっと見てみらんですか。」なんていうふうに旅館やホテルの関係者は、例えば、旅館やホテルの関係者を、「せっかくここまで来られたなら、そこに名護屋城があり

ますよ。行ってみらんですか。」という話ですね。

その時に、そこに、皆さんたちが頑張っているところのVRを。ああいうものを貸出しとか、何かこう勧めたくなるような、「せっかくだから帰りに寄ってみらんですか。」っていう、そのVRみたいなものの貸出し、博物館に来ないとそれが見れないんじゃないかって、そういうのを旅館の人、ホテルの人が代わりに勧めてくれる。受け付けたときに勧めてくれるから、「じゃあ行ってみよう。」ということになる話なので、まず、ここに来させるインセンティブを持っている人、観光産業を活性化させたいという人たちともっと連携をして、背中を押してあげる題材が何かVRとかそういうものじゃないかと。

川副にある産業遺産群だった明治維新のね。あれなんか、VRがあったおかげで、もう本当によくなる。よく理解ができるし。何かちょっと行ってみようと思えるわけです。

あと最後になるんですが、そういう意味から、それと同じことが言えるのは、ここで「はじまりの名護屋城」で言うところの周遊ポイントのサイン等の整備というけれども、もちろんそれはそうなんだが、そのサインのあるところに駐車場はあるのですか、ということ。

そこは安全に、もう高級車か何かで行ってみて、その先には駐車場あるのですか。その先はきちんと、私の車を傷つけなくても、ちゃんと、そこまで行かせてくれるのですか。もしくは、バスで行きたいんだけれども、行けるのですか、というようなことが、きちんと整備が出来ていて、はじめて「そこに行こう」、「行ける」と確信を持てるので、そういう意味からすると、サテライト施設にサインを置くだけでは、全く目的を達成していないと、到達するに当たってのアプローチが全く不十分だと私は思っています。

最後になりますけれども、今、江戸、徳川家康の話やってるけれども、大河ドラマでもそうだけど、やっぱり鎌倉からこの江戸時代は、もう日本の歴史の大きな華だと思います。

そういう意味において、ここの安土桃山文化の花開くスタートとはじまりのこの名護屋城は、もう、この佐賀県民は、歴史的に大きく貢献したうちのひとつなんだとは思っているので、やっぱり、保存もそうだけでも、保存は使命かもしれないけれども、展示を。保存と活用、保存と展示っていうんだったら、もっと展示を。より合理的に展示させやすい、展示に関わりやすい、そして、それがちゃんとビジネスにリンクしていったの相乗効果で、さらにここに客を呼べる、そういう仕組みが、まだでき上がってないと私は思っているので、文化課の皆さんたちも、本庁のほうから、しっかり、学芸員さんの、このすばらしい技術とその能力を活かしきることが大切です。また、「さがデザイン」ではないんだけど、ここはすばらしいところだから、これを町全体の「さがデザイン」という形で集客できるように、やっぱり、こう、もっともっと本庁が思い切り、出掛かってきて、博物館行政を後押しされるべきだと私は思っています。取りあえず保存と展示と言ったら、展示です。

県民に開放してください、情報を共有させてください。私たちを行きたい気にさせるような、そんなアピールをしてください。

私はそういうことを言いたくてここに来ました。以上です。

(副委員長)

ありがとうございました。

大変、同感できる御意見でございます。

大きなテーマだと思いますけど、事務局からどうでしょうか。

(事務局)

どうもありがとうございました。

今、委員から、いくつかの御意見をいただきましたけれど、私も、非常にごもつともだと思える点多々ありました。

まず、去年でしたか、直接御指導いただいたこともあったと思いますが、名護屋城の石垣が見えるようにというのは、私も大変同感です。

私も実は、14年ぶりぐらいに赴任してきましたんですが、そこで城を見たときに随分木が育っていました。

木というのは、本当、5年10年でどんどん大きくなります。

だから、400年の木というよりも、本当に、ここ最近の管理の問題だと思います。

それは、そう思っていますので、まさにおっしゃるとおりで、適切にその辺りは管理できるように思っております。

具体的に言うと、例えば、今こちらから見ていただくと季節的に一番茂っています。

例えば、桜。桜は、今は葉が多くて、非常に大きくなっているんで、登城坂のところが見えにくくなっている。でも、これは、春には、花が咲いて、多くの人々の楽しみになっているので、私も大きな声ではなかなか言いづらいところがあるんですけど、おっしゃるとおり、その辺り、きちっと管理しないとイケない。

ただ、これはもう何度も御説明してるところですが、これは博物館だけの仕事では、なかなか出来ないんです。県。それから市ですね、管理していただいている。

そして地元、それから県民、それから全国の観光でおいでになる方にとって、何が、どういう形が一番いいかというのは、今後検討して、今まさに、今回説明に入っていないんですが、「名護屋城跡並陣跡保存活用計画」というのをやっております。

これは保存整備よりも、もっと大きな、いかにこの特別史跡を活用していくかというような大きな計画策定なんですけど、その中で、今年度も引き続きやっていますので、そういうところで、この樹木の管理の問題は、検討させていただきたいと思います。

ぜひ、「前からすると見やすくなった」というな、非常にすばらしい名護屋城の形が見えるというような形にできればなとも思っております。

それから、名護屋城の標識の問題ですね。これは、おそらく、うちだけではなくて、県内の博物館施設に共通する問題かなと思うんですけども。その辺り、例えば、今おっしゃったように横竹(交差点)とか、それから、伊達政宗(交差点)とか、それからもっと手前の唐津市内からとかですね。ほかの施設に比べれば、実は、私個人の感想なんですけれど、名護

屋では、結構、国道あたりに「名護屋城」というのが、ハングルも含めてあるな、と思ってるんですが、でも、今委員おっしゃったように、それでも少ないということであれば、確かに、ここで迷わないような形の、できればナビなしで到達していけるような標識ができればなと思いますので、その辺りは、今、本当に、唐津市内からの周遊サインの計画を文化課のほうで進めておりますので、大いに期待してるところでございます。

本当に、我々からすると1人でも、1人でもいいからここに来てもらうというのが、ある意味、商売ってことは適切じゃないですが、そういうような希望をもっています。

それから、駐車場ですね。確かに、公有地と、それから私有地と、本当に隣接しながら、史跡というのは、半径3キロ以上のところに広がってますので、その辺りに、駐車場に本当に適した土地が、行けるかどうかですね。

例えば、去年見ていただいた堀秀治陣跡ですね。あれも、正面のほうはすごく狭いんですが、その裏のほうには、毎日、車が数台停まっています。それは、お昼休みとか。ですから、個人的には、ここは結構活用されてるなと思うんですが、確かに大型バスとかが停まれるような駐車場っていうのは、今後、本当にできればですね。この城跡で、できれば、確かに御意見いただいたとおりで、本当に、よりよく発展していくんじゃないかなと思いますので、その辺りも活用計画の中で、できるかどうかというのを検討させていただければと思います。

もう一つ、展示がございました。

今取り組んでおります常設展示のリニューアル計画ですね。その辺りも、ぜひ取り込みながら、本当に、桃山文化、それから時代のすばらしさを訴えるような展示になるように、努力していきたいと思います。

VRもそうですね。本当にVRのコンテンツを御希望があれば、そういうモニターを所有のテレビモニターみたいところで流していただければ、名護屋城、今、例えば、ここが見れる。旅館さんであれば石垣を見ながら、今、片方では旅館の中でVRが見えて、実は目の前にある石垣の城跡が、400年前はこういう空間だったのかっていうのは、まさにそこで目の当たりに見ていただけますので、「じゃあ登ってみよう」とか、「ちょっと行ってみよう」とか、確かにそういうことですね。今、我々、配付していますのは、お配りしてます年間行事とかそれぞれのいわゆる紙資料です。そういうものを、適宜、定期的にお配りしているんですけども、おっしゃったようなコンテンツなども、もちろん受入れ方のほうの御都合もあると思いますけれども、できればと思います。また、インターネットでアプリをダウンロードして現地に行けば見れるようになっていきますので、そういうものも含めてPRできればというふうに考えています。

ありがとうございました。

(副委員長)

ありがとうございました。

予定時間が過ぎていますが、良いでしょうか。

ちょっと発言される方を絞らせていただいて、1～2名程度でいいので、どうしても話したいとか、発言したい方は、何がございせんか。

(委員)

史跡探訪会のファンが多い理由と利点は、映像では感じ取れない、その当時と同じ道を歩き、説明を聞きながら、その空間に入り込んでいくような感覚になるところだと思っています。

また、同行される学芸員の方へ、直接質問ができる場合は貴重で、身近に感じることができるところだと思っています。

年10回の講座は、どの講座も興味深く聞いておりましたが、中でも、1月15日の「草庵茶室再考～建築から見る名護屋城、上山里丸、草庵茶室～」の講座は、海月の初釜会でお茶をいただいた後の講座でしたので、内容がずっと入ってきました。

お茶の席で、同じ顔ぶれの方がおられました。その方々も、講座のほうへ行かれていました。

このように関連して講座が行われる企画があってもいいのかなあと思いました。

2月26日、海月で、「マルシェおはなしの会、みんなに聞いてほしい、名護屋城の秘密」、説明のP4ページの真ん中の写真に載っておりましたが、学芸員からのお話は、小さい子供にも分かりやすくお話をされていました。

その当時の衣装と名護屋城図の縮小された屏風を使って、子供に今と何が違うのかという問いに、子供たちは屏風の近くに行き、真剣に見比べて、たくさん意見が出ました。

お茶をいただいた後、帰りにうちわと秀吉のポストカードをいただきましたが、いい企画だなあと思いました。

歴史は難しいというイメージがありますが、子供の頃から、自分が住んでいる地域のこととして、身近に感じ取れる仕掛けと工夫がされていました。

そういったところです。

(副委員長)

ありがとうございました。

今の委員の御発言で、何かございます。

(事務局)

貴重な御意見ありがとうございました。

私どものほうも、講座を開催するに当たって、より多くの方に来ていただけるように、内容を工夫して、順次行っていきたいと思います。

より多くの方に身近に博物館に来ていただいて、中の展示や史跡の様子をより分かりや

すく、丁寧に説明を尽くしていく所存です。

それと、地域の子供たちにも、よく小さい頃から、地元の歴史のことについてお話しする機会を、私どもも探っていきながら、学校と連携しながら、地域の地域の佐賀県の歴史も含めてお話をしていって、より歴史を身近に感じていただいて、地元のことも分かっていたいただけるような取組をずっとさせていただきたいと思います。

貴重な御意見ありがとうございました。

(副委員長)

ありがとうございます。

ほかに、ぜひともこれを話しておきたいとか、用意されている方はいらっしゃいませんか。

今日、学校現場から、高校、中学、小学校といらっしゃいますけども、何か、代表して、どうですか。

(委員)

本校の生徒が、この地区で大変いろんな勉強をして、なかなか今、唐津に残らないといいますが、地元就職せずに離れていく。福岡とか、また違うところに行く生徒も多くいます。

そういうふうには、他に行ったときに、ぜひこの唐津、そして名護屋城の話を出て行った先で、「こんなところですよ」というふうな話をできる生徒を育てようということで、取り組んでいます。そういうふうな話を聞いてですね、「行ってみようかな」というふうに思ってくれたり、「今度帰るから一緒に来んね。」とか、そういったつながりが、どんどん出来ていったらいいなというふうに、今思っているところです。

先ほどですね、ちょっと話変わりますが国スポ全障スポの話が出ました。

唐津とか唐津くんちとか有名なんですけども、私ふと思ったのが、この辺りに来る人はやっぱり、福岡のあたりから呼子にイカを食べに来る人が多いというのがよくあるんですけども、平成になった頃ですか、呼子大橋が出来て、ここに名護屋城の博物館が出来て、観光客も、加部島とか、波戸岬とかに、観光で来る人も多くなったんですけども、全国から来た人が、ひょっとしたら「名護屋城って何か聞いたことあるな」とか、「呼子のイカって、ちょっと行ってみたいなあ」と思うけども、意外と、車で5分、近いところにあるというのが、アピール出来てないところがちょっとあるのかなと。「名護屋城と呼子って、えらい近くじゃないか」と、「ちょっとイカ食べに行ったついでに寄ってみようかな」とか、そういうふうな観光施設を関連づけてですね、いろいろ興味を持って「帰ってよかったよ」という話をまた、福岡とか、地元の職場とかですね、近所の人とか、そういうふうな話で、つながっていけばいいのかなあというふうに、思っていたところでした。

ちょっと思いつくまま、話させていただきました。

(副委員長)

大変ありがとうございます。

事務局から、何かございますか。

(事務局)

何度も授業で御一緒させていただいて、いろいろ知っていただいて、子供たちがまた、大人になって、やってきて良かったよと言ってくれる声も多々聞いております。

そういうことで、学校のほうですね、全体に先ほどと同じになりますけれども、「大きくなってまた来てみようね」とか、友達に「こっち良いから行ってみようね」とか、そういう気持ちを起こさせるような、つながりを持って、ずっといきたいと思います。

それとあと、呼子のほうですね、こちらの方は、もう全体の観光的な問題になるんですけども、もう少し、呼子のほうにも陣跡もありますし、こちらの名護屋のほうにも来ていただけるようなお伝えを何らかの方法で取り組んでいければ、ということ考えてと思います。

(副委員長)

ありがとうございました。

初めて参加された委員、どうですか。

(委員)

ありがとうございます。本当に初めて参加させていただいて、名護屋城の事業、様々な事業というのを、改めて知ることが出来ました。

大変な努力をやっていらっしゃるっていうのを再認識して、これはやはり、アピールしなきゃいけないなと思ったところです。

ただ、皆さん悩ましいのは、展示と保存活用、せめぎ合いかなあっていうところを改めて感じました。

ただ、とにかくアピールするという意味ではいろんな方法で出来ますので、その際もあちこちに、最近つくられたという話ではありますけれども、でも、まだ、例えば、唐津の方は皆さん御存じでも、佐賀市内の方とか、あるいは鳥栖にお住まいの方って、やっぱり博物館、名護屋城博物館、ないしは名護屋城のアピール度って低いなと思うんです。

ですから、全県的に、まずは全県的に、アピールができるようにっていうのを願うところです。取りあえず、以上です。

(副委員長)

ありがとうございます。

皆さんから貴重な御意見、御提言をいただきまして誠にありがとうございます。

よろしければ、これで本日の協議を終わらせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局)

事務局といたしましては、本日皆様からいただきました御意見を今後の館の運営に反映できるところから、取り組みたいと思いますので、今後とも、応援よろしく願いいたします。当館の運営に関しまして、お気づきの点など、また別にございましたら、この会議のとは限らず御連絡いただいても結構ですので、よろしく願いいたします。

本日は、長時間、誠にありがとうございました。